

うしお

第143号

昭和43年5月

目次

本県におけるニジマス養殖の 経過と動向	大口養魚場	1
4月の漁海況	漁業部	8
定置観測(4月分)	養殖部	10
漁場観測速報(4月分)	〃	11
業務概況	編集部	12

鹿児島市城南町20番12号

鹿児島県水産試験場

本県におけるニジマス養殖の経過と動向

大口養魚場

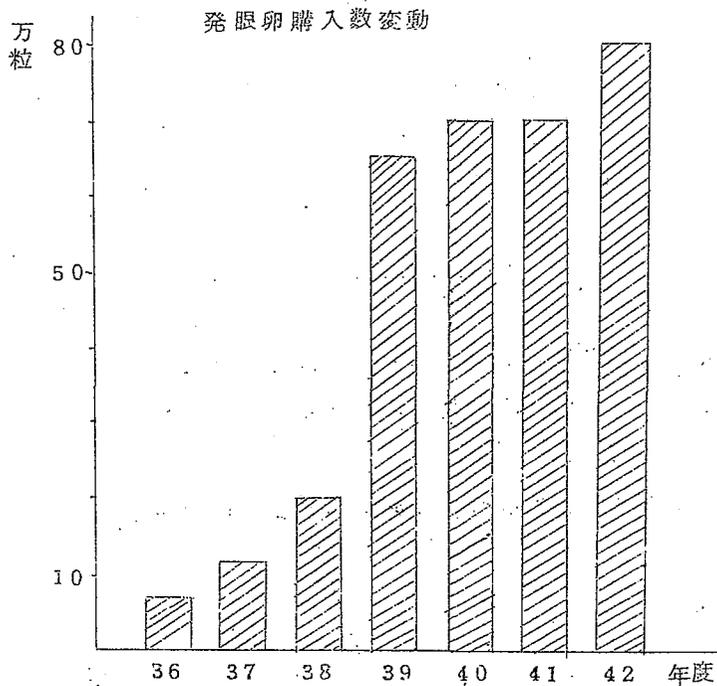
1. 本県ニジマス養殖の沿革

ニジマスは明治10年米国より我国に輸入されて以来各地で養殖が行なわれるようになったが、本県でニジマスの企業的な養殖が行なわれるようになったのは、昭和36年9月当大口養魚場が宮崎県小林総合養魚場より20,000尾の稚魚と食用規格魚約3,000尾を移入したのがニジマス養殖の始まりでありその後幾多の経緯を経ながら、新しい淡水養殖魚として県民に親しまれるようになり現在に至っている。

2. 稚魚生産

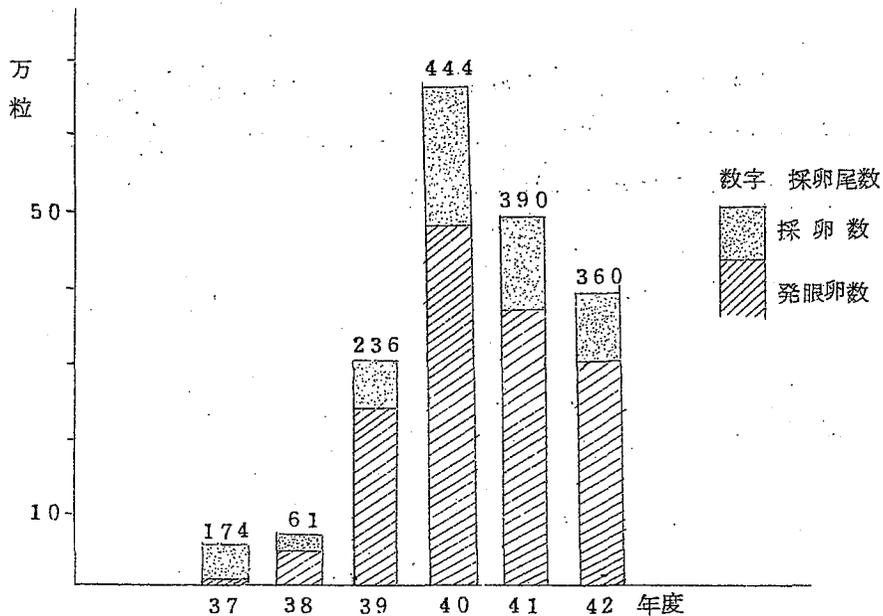
ニジマス稚魚生産は施設及び高度の技術が必要とされ、従つて民間企業では大規模経営を除いて行なわれておらず、一般に公的機関で生産されている。当場でも養鱒業の発展をはかるため37年よりこの仕事に取り組んでいる。

(1) 発眼卵購入



年度	購入数量	生産地
36	66,000粒	宮崎県
37	115,000	静岡
38	200,000	滋賀, 静岡
39	650,000	滋賀, 静岡, 長野
40	700,000	〃
41	700,000	〃
42	800,000	静岡

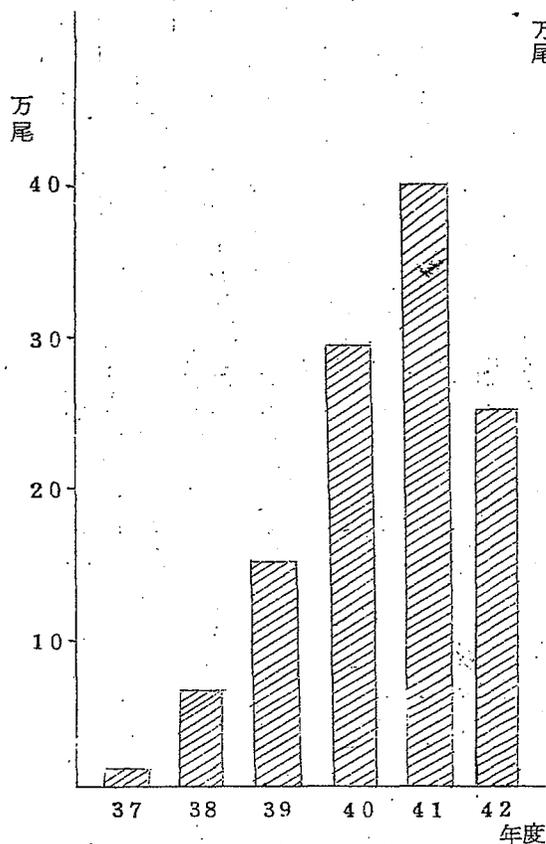
(2) 自家採卵



自家採卵は昭和37年度から試験的に実施し、39年度で目的を達した。当場の採卵は時期がやゝ遅れるため、事業的には購入卵に主体をおき補足的にとめている。

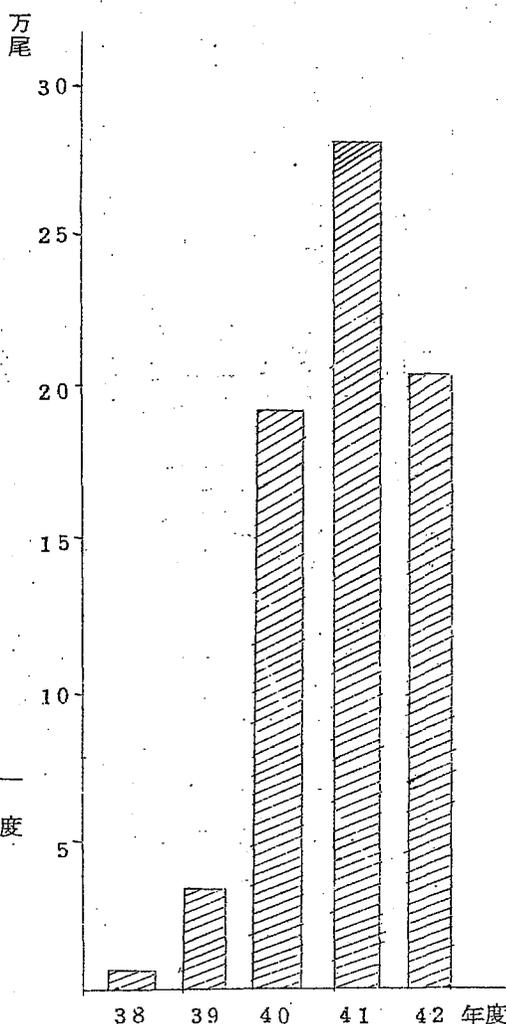
42年度は夏期の干ばつによる親魚斃死により小型親魚を用いたため採卵数が減少した。

(3) 年次別稚魚生産数



※ 当場の現ふ化室の施設及び稚魚池での稚魚生産限界は100万尾位である。

(4) 稚マス配付数量



稚マスは38年より民間へ配付を始め、40年には飛躍的に伸びた。42年度は干ばつによる斃死のため需要の70%位の供給率であつた。42年度は12月現在。

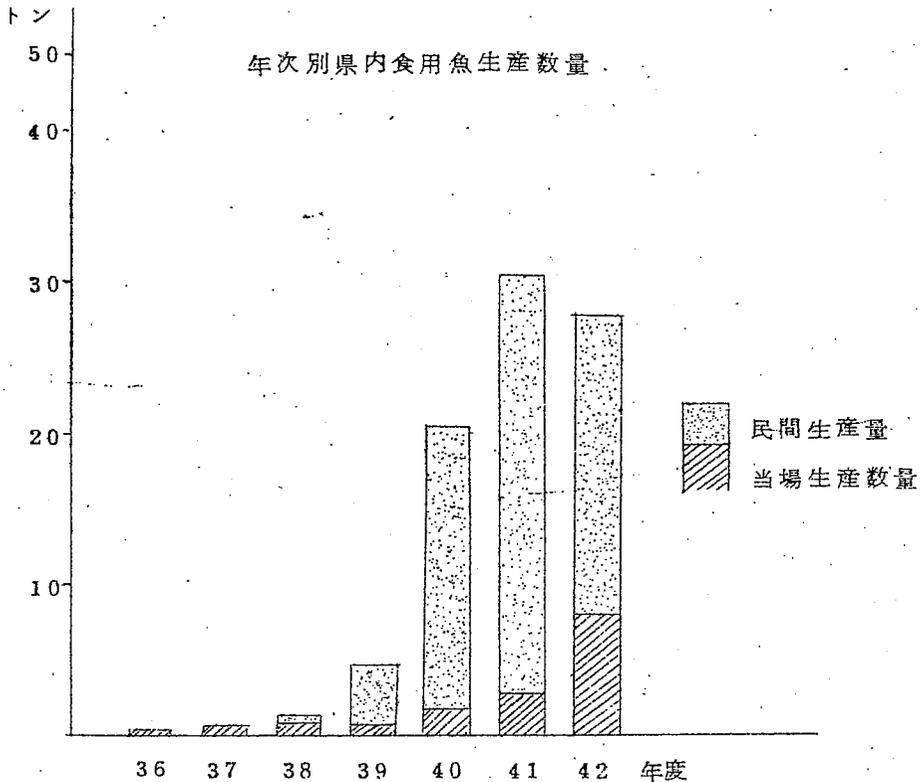
県外及び県内の地区別配付数は次表のとおりである。

雅マス地区別配付数量

市郡別	38年度	39年度	40年度	41年度	42年度	計	備考
出水郡			6,600尾	7,750尾		14,350尾	高尾野
出水市			9,400	3,450		12,850	
薩摩郡		1,000	2,000	5,000	4,130	12,130	宮之城 東郷 薩摩
阿久根市					6,400	6,400	
串木野市		400	22,100	23,000	5,000	51,500	
日置郡			2,100	1,300	1,000	4,400	吹上 郡山
加世田市			3,000		2,000	5,000	
川辺郡			15,200			15,200	川辺 知覧
枕崎市						0	
指宿市						0	
指宿郡	5,000	19,500	15,000	50,000	10,000	99,500	開闢
谷山市			11,300	18,000		31,300	
鹿兒島市			3,000	16,900	2,000	19,900	
始良郡		6,300	62,000	35,450	26,300	130,050	吉松 霧島 隼人 加治木 栗野
伊佐郡			1,500	4,000	2,000	7,500	菱刈
大口市	1,000	2,680	7,660	33,700	30,300	75,340	
国分市							
囃咲郡	1,000		10,000	15,000	5,000	31,000	志布志 大隅 有明
垂水市				4,000		4,000	
鹿屋市		4,300	7,000	2,200		13,500	
肝付郡		2,000	6,000		15,000	23,000	串良 吾平 内之浦
熊本県			8,000	59,750	40,500	108,250	人吉 湯之浦
計	7,000	36,180	192,160	279,500	206,930	721,770	

3. 食用マス生産

県下のニジマス食用魚生産数量は統計的に確実な数量が判明していないが、種苗生産供給を行なっている當場での供給した稚魚数から食用魚換算を行なうと次表のとおりである。



4. ニジマス養殖の動向

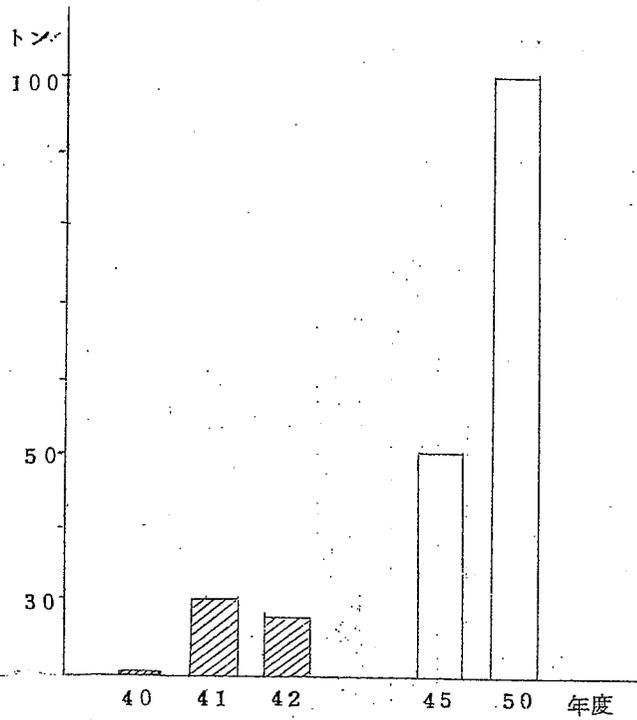
本県におけるニジマス養殖は霧島山系をはじめ、大隅、薩摩半島に散在する地下湧水利用が主体であり、養殖形態は小規模で粗放的なものが多く、今後未利用水源の開発と合せて、山間地の冷水河川の利用を含めれば自然条件的には大きな発展が期待できよう。

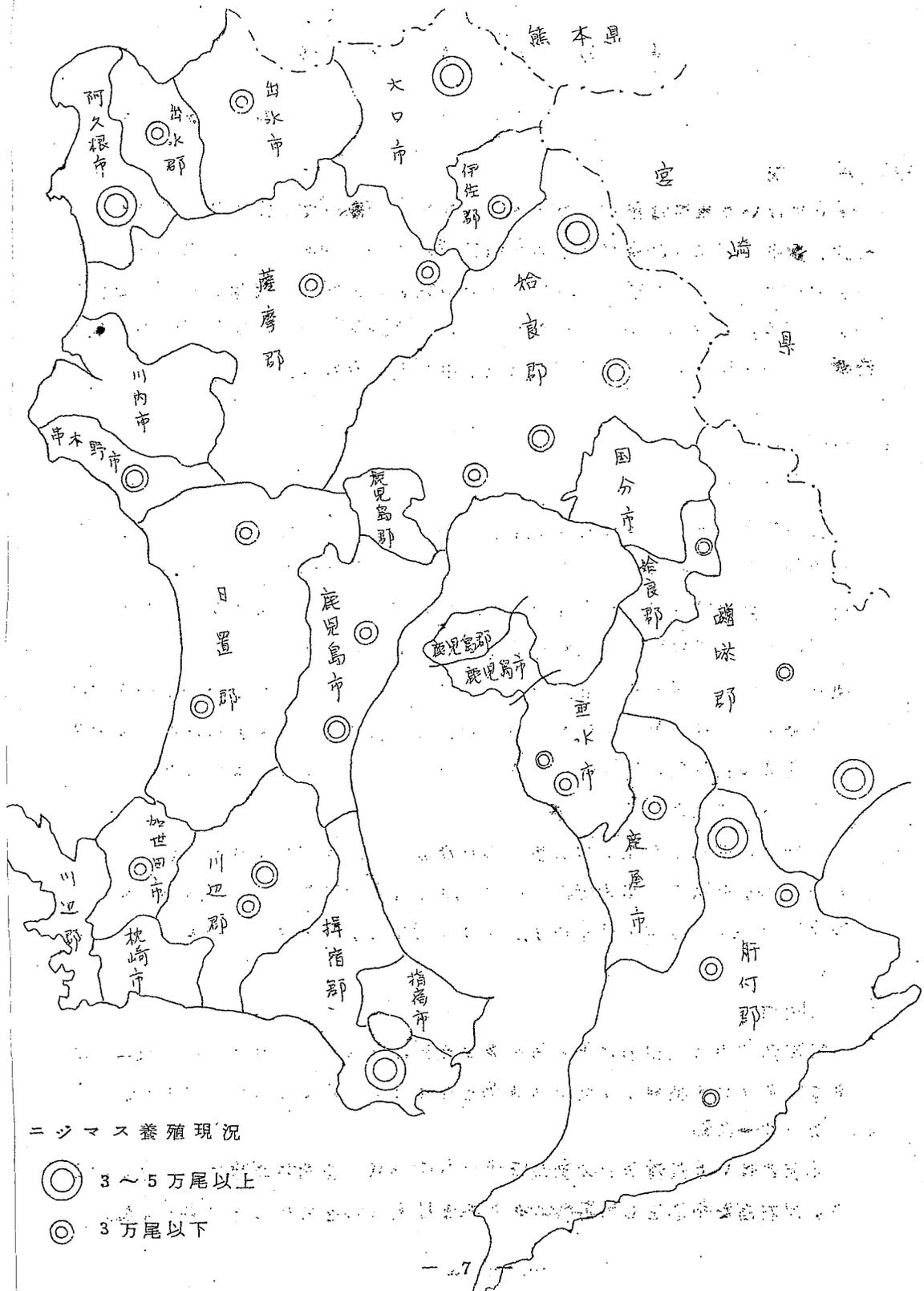
しかしながら新業発展の最大要因は消費市場の拡大にかゝっており、更に種苗生産の確立を図ることも必要欠くべからざることである。

最近の生産と流通関係は、併行の傾向よりむしろ消費増大の方向に向っており、

今後はこれらのバランスをとりつつ、新たな市場開拓と生産増大を図るべきであ
らう。

今後の県内食用マス生産見込み





4 月 の 漁 海 況

漁 業 部

※ 海 況

4月にはいり水温は緩やかな上昇が見られ、黒潮流域では大体平年並となったが、薩南沿岸域ではなお例年より低目であつた。中旬は屋久島近海で21℃台、トカラ海峡で23℃台を示し、薩南沿岸、沖合域では大体例年並となつたが、下旬には沿岸水の張り出しもみられ、薩南沿岸沖合域では再び例年より1℃前後低目となり、この低目は5月上、中旬もみられた。

※ 漁 況

○ 旋 網

旋網による3港の水揚量は2,422吨で昨年同期をやゝ上廻つたが、これは延操業隻数の増加によるもので1統平均水揚量は昨年より少ない。

魚種別にみればマアジは1,400吨で昨年同期の1.5倍とやゝ増加したが、サバは360吨で昨年の約1/2、41年4月の1/6で少なかつた。

海域別には、薩南の馬毛島近海でマアジ主体、ヤクロ管根、湯瀬、梅吉ではムロサバ主体の漁がみられた。マアジは昨年同期の3倍であつたが、サバは昨年より半減した。枕崎港における1統平均水揚量は11吨で4月ではこの数年来の最低であつた。

西薩では甌島、牛深、阿久根、長島海域でマアジ主体(65%以上)の漁がみられ、阿久根、串木野港水揚は1,641吨で昨年同期の1.5倍であつた。マアジは1,155吨(昨年の1.3倍)で増加し、カタクチもやゝ増加している。

○ 八 田 網

鹿兒島湾内の八田網によるカタクチ漁況は好漁で山川港における水揚量は65吨(カツオ餌料)で同港の水揚としてはこの数年来の最高であつた。

○ カツオ一本釣

4月にはいり近海カツオ漁況は活潑となつた。上旬の漁場は中之島、口之島、悪石島を中心として好漁がみられ1隻15~20吨の船が多かつた。

中旬には口之島，臥蛇西，鳥島近海で漁場形成がみられたが，下旬には種子島，都井岬間が主漁場となり一段と活況になったが，この漁場は持続せず漁場は再び七島各域に分散した。

業種	漁港	入港 隻数	漁獲量 (屯)	ア	ジ	サ	バ	ム	ロ	カタクチ	他	昨年 同期	
												隻	屯
旋網	阿久根	大	68	588.1	384.2	29.2		0.1	157.6	17.0		53	500.3
		中	83	364.2	232.7	0.9	0.1	87.7	42.8	7.9	43.4.5		
		小	89	130.8	127.6	1.0	0.1	1.4	0.7	17	34.0		
	枕崎	71	780.4	268.9	321.1	128.0	7.0	55.4	38	808.6			
	串木野	61	558.8	411.1	7.9	27.2	35.3	77.3	28	321.4			
	計	372	2422.3	1424.5	360.1	155.5	289.0	193.2	215	2098.8			
カツオ 一本釣	枕崎	大	56	2049.0								43	1123.1
		小	115	1359.0								96	1008.5
	山川	大	31	1241.0								37	912.4
		小	173	2342.4								150	1544.9
八田網	山川	42	65.2						65.2		34	31.9	
曳縄	枕崎	?	285	カツオ21.3				ヨコワ7.2					
	山川	35	15.6	カツオ11.1	シビ0.7			ヨコワ3.0	他0.8			20	2.2

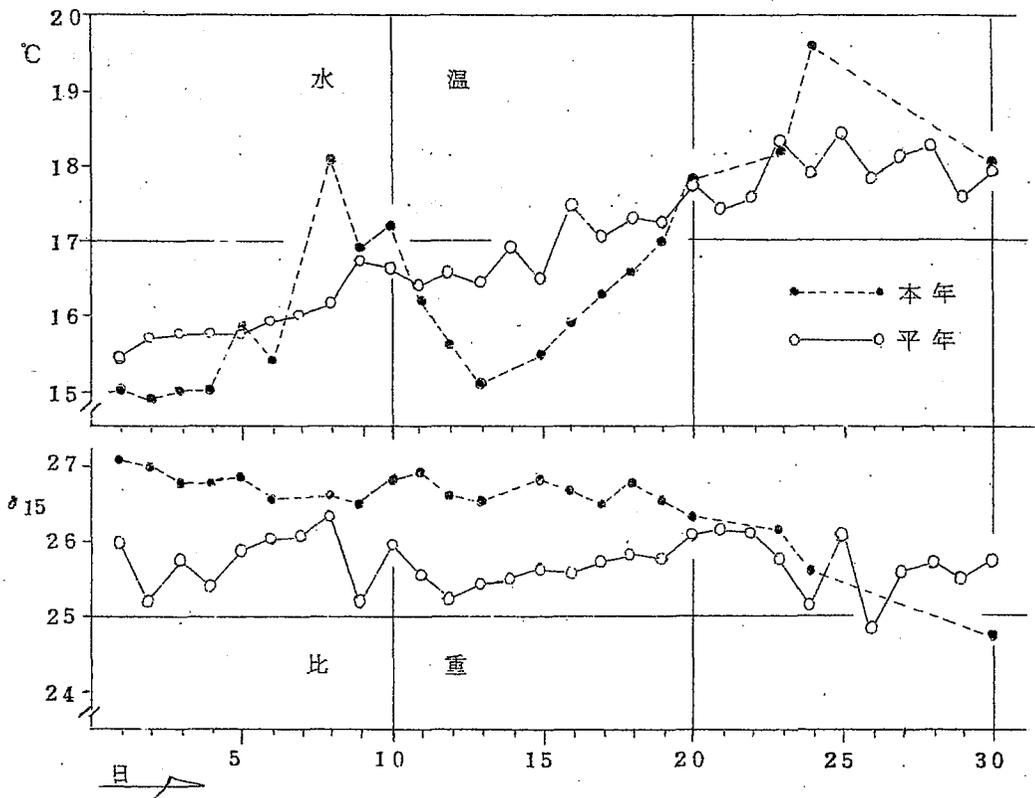
定 置 観 測 (4 月 分)

養 殖 部

○ 旬平均水温・比重 (満潮時・表面)

旬	水 温 °C				比 重 δ15			
	本 年	前旬差	前年同期差	平年差	本 年	前旬差	前年同期差	平年差
上	15.92	+1.34	+0.30	-0.08	26.76	+0.31	+1.70	+0.95
中	16.22	+0.39	-0.21	-0.72	26.64	-0.12	+1.69	+1.00
下	18.63	+2.41	+0.52	+0.63	25.55	-1.09	-0.78	+0.12
月平均	16.43	+2.11	-0.35	-0.52	26.53	-0.08	+1.06	+0.9

4 月 の 水 温 ・ 比 重

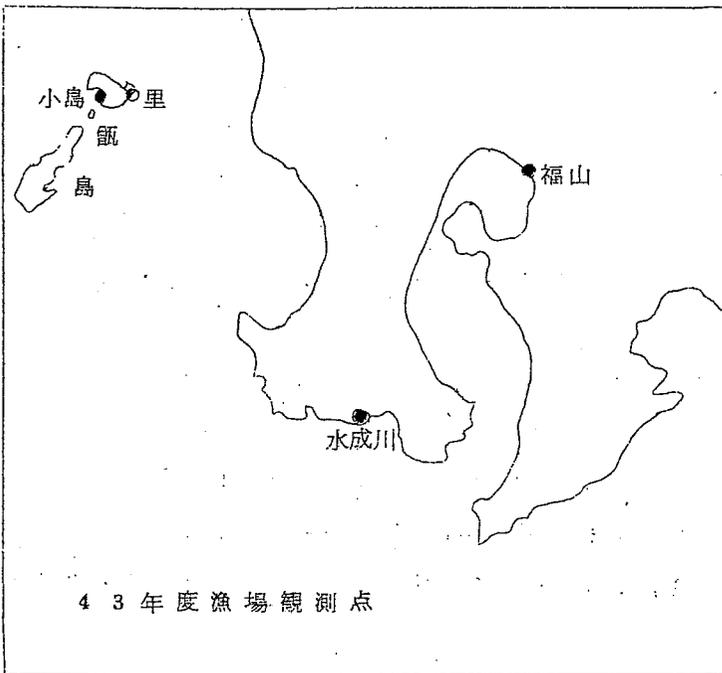


漁場観測速報（4月分）

養殖部

旬別	小島		水成川		福山	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
上	18.77	15.50	18.52	17.22	17.06	16.04
中	17.97	15.43	18.54	17.31	17.55	16.29
下	18.54	16.72	19.60	17.77	20.70	16.62
月平均	18.41	15.89	18.96	17.58	17.55	16.25
前月差	-	-	+3.42	+2.43	+1.59	+0.31
前年差	-	-	-1.74	-1.62	+0.05	+0.32

○ 本年度の漁場観測点は水成川、福山では昨年度から継続実施するが、昨年度までの里村、里の定点を上飯村小島へ移すことにした。



○ 水成川の4月水温は、最高水温の平均が18.96℃、最低水温の平均が16.25℃であった。月間の最高水温は中、下旬の19.8℃、最低水温は中旬の16.0℃であった。この水温は前月よりも最高で3.4℃、最低では2.4℃高くなっており、昨年同期よりも最高で1.7℃、最低で1.6℃低くなっている。

○ 福山では、最高水温の平均が17.55℃、最低水温の平均が16.25℃で月間の最高水温は中旬の18.8℃、最低水温は上旬の15.7℃であった。また前

月よりも最高で1.6℃、最低で0.3℃高く、昨年同期よりも最高で0.1℃、最低で0.3℃とわずかに高くなっている。

○ 小島では最高水温の平均が18.41℃、最低水温の平均が15.89℃。月間の最高水温は下旬の20.2℃、最低水温は上旬の13.5℃であつた。

○ 全般的に水温の上昇傾度は大きくなつてきたが、外洋に面した水成川では昨年よりもかなり低くなつている。

長崎海洋气象台5月上旬発表の西日本海況旬報によると、九州沿岸域では平年よりもやや低目となつている。水温は今後とも上昇を続けるが、海況変動の大きい時期だから沿岸や潮目附近では注意するように報じている。

業 務 概 況

漁 業 部

- 漁海況海洋観測(かもめ) 5月1日～8日
- トビウオ漁況予報発表 5月16日
- 貝、エビ分布調査 枕崎沖合(かもめ) 5月22日～31日

製 造 部

- かつお節電熱利用試験

かつお節焙干工程の省力化を目的とし、燻液処理電熱利用による乾燥方式につき九州電力との共同試験を実施し効率の良い結果を得た。

更に大型魚につき追試する計画である。

○ イカ粉末化試験

前月に継続しクルマエビ餌料として素干イカ(35,180g)及び凍結真空乾燥品(571g)を試作した。

○ 第2回利用加工全国会議

新製品班,ねり製品班……藤田出席

鮮度保持班,冷凍班……石神出席

養 殖 部

○ ノリ関係

* ノリ葉体室内培養実験(月間)

* ノリ糸状体培養(月間)

* ノリ養殖試験(42年度試験 継続)

4月30日の試料採取をもつて3品種,3水位別養殖試験を終了した。

* 5月15~19日

水産庁主催指定試験「のり養殖技術研究」研究協議会へ出席 於:佐賀市

○ ワカメ関係

* 游走子付け指導

5月14日 谷山水産振興会 3,000m(養殖メカブ)

5月16日 鹿屋市漁協 11,000m(阿久根メカブ)

5月17日 谷山水産振興会 21,700m(阿久根メカブ)

〃 鹿児島市漁協 25,300m(阿久根メカブ)

5月20~22日 東町漁協他 145,000m(東町メカブ)

5月24日 谷山水産振興会 22,300m(東町メカブ)

〃 鹿児島市漁協 5,000m(東町メカブ)

〃 〃 〃 3,100m(養殖メカブ)

* 養殖メカブによる採苗実験(月間)

○ コンブ関係

北海道産のマコンブを原藻として採苗した種子糸を去る1月21日東町葛輪に沖出しして養殖。5月19日の測定で最大長2.5mに生長し,少しづつ未枯れもみられている。

○ アラビ・トコブシ餌料種別飼育試験

前月に引続き大崎鼻にてポリバケツ(15ℓ)を用いてハバノリ、アオサ、ホンダワラ、コンブの餌料種別の飼育を行ない、採卵母貝として貝の生殖巣の発達を観察中である。

○ アコヤ採苗試験

5月初めから浦内湾、伊唐湾、片浦湾において定点観測、幼生採集調査を委託実施中。

○ 多毛類によるアコヤガイ病害調査

4月26～28日鹿儿島湾内、5月23～25日東町の春母貝のポリドラによる病害調査を行なった。

○ ポリドラ、フツツボ発生状況調査

鹿儿島湾内龍ヶ水地先で7日毎にネット採集し、ポリドラの浮游幼生、フツツボのノーブリューム、キブリス幼生数を計数中。

○ ムラサキイガイ採苗試験

海潟、牛根、高免、龍ヶ水地先にコレクター設置し採苗試験中。龍ヶ水地先の浮游幼生数も計数中。

調 査 部

○ クルマエビ餌料試験

43年度指定研究の予備試験として各種バインダーの性状調査を実施中。

○ 定期漁場調査

垂水市海潟、牛根ハマチ養場の水質・底質及び細菌調査。

5月2日、17日

○ 工場廃水汚濁調査

出水市ワラビ島周辺において水質調査を実施。5月14～16日